

農作物の生育概況等について

1 気象経過

5月は天気が周期的に変化した。平均気温は平年並みから高く、降水量は平年並みから多く、日照時間は少なかった。6月に入り、高温・多照傾向になってきている。

2 主な農作物の生育状況

(1) 水 稲

- ・ 移植作業の盛期は、平年よりやや遅い5月20日（平年比+2日）であった。
- ・ 移植後は寒暖差が大きかったものの、生育は概ね平年並みとなっている。

(2) 果 樹

- ・ さくらんぼの生育は、当初の予想より2日程度早まり（平年比-2日）、収穫盛期が「佐藤錦」では6月15日～21日頃、「紅秀峰」では6月23日～6月30日頃、「やまがた紅王」では6月20日～26日頃と見込まれる。

(3) 野 菜

- ・ 露地すいかの交配は、5月26日頃から始まり、盛期は例年よりやや遅い6月1日から6月25日頃と見込まれる。生育は、日照不足等の影響で5日程度遅れている。
- ・ 露地メロンの交配は、5月23日頃から始まり、盛期は例年よりやや遅い6月1日から6月10日頃と見込まれる。生育は、日照不足等の影響で5日程度遅れている。

3 当面の主な技術対策

- 〈水 稲〉 茎数増加を促す浅水管理徹底を推進、適期の中干し実施、食味重視の追肥、斑点米カメムシ類の防除対策（草刈り等）
- 〈果 樹〉 さくらんぼの適期内収穫・厳選出荷に加え、今後の気象状況に応じた高温対策の徹底の推進、灰星病、果樹カメムシ類・オウトウショウジョウバエ・りんご黒星病・もものせん孔細菌病等の防除の徹底
- 〈野 菜〉 ハウス・露地果菜類の水分・温度・肥培管理の徹底、露地野菜の排水対策の実施、各種病害虫の適期防除の徹底
- 〈農作業安全〉 熱中症や農作業事故を防止するための基本的な対策の実施

【さくらんぼの収穫・出荷・販売状況について】

1 収穫期

- ・早生種の「紅さやか」の収穫盛期は、園芸農業研究所において前年より5日遅く、平年並の6月4日となった。
- ・その後、6月6日から気温が高く日照の多い日が続いているため、果実の熟度が進み、収穫期が早まっている。
- ・このため、収穫盛期は、平年より2日程度早まり、「佐藤錦」が6月15日～21日頃、「やまがた紅王」が6月20日～26日頃、「紅秀峰」が6月23日～6月30日頃となる見込みである。

■ 農業総合研究センター園芸農業研究所(寒河江市)における収穫盛期

品種	本年	前年	平年
紅さやか	6/4	5/30	6/4
佐藤錦		6/13	6/18
やまがた紅王		6/13	6/23
紅秀峰		6/16	6/25

2 現在の出荷状況及び今後の見込み

- ・早生種の「紅さやか」の出荷は、5月26日頃から始まり、盛期は平年並の6月1日～6日頃となった。現在、出荷は概ね終了している。
- ・主力の「佐藤錦」の出荷は、雨よけ被覆のない露地栽培では5月30日頃から始まり、盛期は6月8日～10日頃になる見込みである。雨よけ被覆栽培では、6月12日頃から出荷が始まり、盛期は6月15日～21日になる見込みである。
- ・果実の熟度は、6月6日からの高温・多照の影響で、平年よりも進んでいる。そのため、果実が十分に肥大する前に、収穫期を迎える可能性がある。
- ・また、裂果の発生は、5月31日、6月3日の降雨の影響で、雨よけ被覆のない露地栽培に加え、雨よけ被覆栽培でも、例年より多く見られている。そのため、本年産の収穫量は、予想収穫量の下限値の9,100tに近い値となる可能性がある。

〔 本年産の作柄予想<山形県さくらんぼ作柄調査委員会 令和7年5月23日調査、5月28日発表>
・予想収穫量：平年より少ない9,100t～10,200t（平年比72～80%、前年比106～119%）。 〕

3 今後の対応

- ・本年産の果実の熟度は、バラつきが大きいものの、6月上旬の高温の影響で進んでいる。そのため、もぎ遅れとならないように適期内収穫及び厳選出荷と灌水や遮光などの高温対策の実施について、生産者への情報発信を徹底していく。